

公表:令和7年3月25日 職員数 28名 回収数 24件 割合 86%

事業所名:伊勢原市児童発達支援センターおおきな樹

質問事項		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	工夫している点、課題等	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	14	7	1	2	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもたちにあわせて、クラスごとにロッカーや棚で仕切りを作り、その時の状況に応じて部屋の広さやスペースを分けています。 ・人数が多い時は利用者の遊びの種類に合わせて教室の内外で区別する、机の配置を変える等の工夫をしています。 ・目的に合わせて、レイアウトを変えて療育支援を行なっている。 ・収納よりも物を増やさないようにしている。 ・クールダウンのスペース確保が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒静養室については、整理整頓し、多目的に使えるようにしていきます。 ⇒スペースが限られているため、効率化を図ります。 ⇒こどもの状態に合わせて室内環境の構造化に努めていきます。
	② 職員の配置数は適切であるか	9	10	5		<ul style="list-style-type: none"> ・利用児人数に合わせて、職員人数も調整してもらえていることが有り難いです。 ・職員の数人が足りていないと思う。 ・あと一名の職員がいれば手厚い支援ができる。また、他の利用者に対して手薄になる状況が減らせる。 ・出来れば、フリーの職員が各クラスに置ければ良い。 ・支援状況によって場面によってもう少し人が増えたらいいと思うことがある。 ・人数は足りているが常勤職員が少ないと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒法令上の人員配置以上の人員配置は行なっています。 ・非常勤職員から常勤職員へのキャリアアップを行なっています。 ⇒様々な媒体を使用しての求人活動を継続して行なっています。 ⇒現在ボランティアの受入れをおこなっています。潜在的なボランティアの発掘を行なっています。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	3	14	5	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ロッカーの位置や導線は工夫して構造化を図っている。 ・バリアフリー化はされていない。 ・施設の設備上バリアフリーは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒建物は、元保育園の構造となっており、構造変更は難しいですが、環境整備等を行ない工夫しながら活用し、行政とも設備面とは検討を行なっています。 ⇒支援中の課題を共有し、お子さんにとって理解しやすい環境整備のため、さらなる工夫を重ねていきます。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	5	12	6	1	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレについて、室温、便座の冷え、手洗い温水が出ない。 ・掃除は毎日しているが、洗えないカーテン等の汚れへの配慮が必要。 ・エアコンの効きに偏りがある。特に夏場、冷え過ぎる場所と暑いままの場所がある。 ・教材を置くスペースが限られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒気温をみながら室内環境の調整を図っていきます。 ⇒今後できる限り清潔で心地よく過ごせる環境整備の維持を行なっています。
	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	9	11	1	3	<ul style="list-style-type: none"> ・時短職員が増えたため、全員での振り返りは難しいことがある。 ・詳細不明。定例会議等の決定事項は自分から確認したいが、不定期・突発の話合い等は開催されたことそのものを知らないこともあるので、全職員の周知事項は今まで通りワークスで流して欲しい。掲示板が便利。 ・職員は参加しているが、全体に周知されているかはわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒全職員が支援目標等の確認ができるようICTの活用や情報共有の機会を設けます。

公表: 令和7年3月25日 職員数 28名 回収数 24件 割合 86%

事業所名: 伊勢原市児童発達支援センターおおきな樹

	質問事項	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	工夫している点、課題等	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
業務改善	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	11	2		11	・おそらく実施しているのではと思うが実態は知らない。こういうアンケートの項目があるなら「いつ実施しましたよ」と職員に周知する場(アナログでも電子でも)があってもいいのでは。朝礼等で口頭伝達はされているかもしれないが、その日に出勤していなければ把握できない。 ・できることとできないことを明確にし、根拠を持って説明するようになりたい。	⇒自己評価結果については、保護者、職員共に情報発信を行なっていきます。
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	9	1		14		⇒毎年ホームページ上に公表しています。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	8	1	2	13	・外部評価をぜひ受けてほしい。	⇒外部評価は未実施であるが、今後は外部からの評価を検討します。
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	21	3			・動画研修が見れる時間がなかなかとれず、機会があるのに受けられないのはもったいない。 ・新人研修などをもう少し行えたら良いと思う。 ・直接支援のロールプレイの研修が良いかと思う。	⇒年間研修計画をたて定期的な研修機会と動画研修の土入と共に外部研修などの機会も設け職員の支援技術向上を図っていきます。
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	18	2		4	・クラスで担当者会議が出来ているので、支援や状態の確認になるので有り難いです。	⇒アセスメントが一職員の偏った意見にならないように、日々の記録から抜粋するなどきめ細かいアセスメントを行ないます。 ⇒クラス職員が担当者会議に参加し、個別支援計画を作成しています。
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	13	4		7	・今年は発達検査ができなかった。代わりにテストバッテリーで行えるとよかった。	⇒聞き取り式の標準化された発達質問紙を用いて客観的なアセスメントを実施を図っていきます。
	⑫ 個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	13	5		6		⇒今後も、ガイドラインに沿ってお子さんの支援に必要な項目を適切に選択し、具体的な支援内容を設定し個別支援計画を作成していきます。
	⑬ 個別支援計画に沿った支援が行われているか	10	9	1	4	・各職員が支援計画が共有出来ている部分がある。	⇒日々の支援で個別支援計画を意識して支援に望めるように、担当児童の記録を読む時間を確保すると共に支援の振り返りをお粉つこと支援計画の確認を行なっていきます。

公表:令和7年3月25日 職員数 28名 回収数 24件 割合 86%

事業所名:伊勢原市児童発達支援センターおおきな樹

	質問事項	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	工夫している点、課題等	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	9	7		8	・月ごとに課題を作成、保護者へ配布を行なっています。 ・リーダー打ち合わせも定期的実施しています。	⇒課題は、主任で月単位で検討し、同じテーマの課題をそれぞれのクラスの発達段階に合わせてアレンジし、活動プログラムの設定を行なっています。
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	14	5	1	4		⇒課題分類表を作成し、5領域に応じた発達段階ごとの課題の目標を確認できるようにプログラム化を行なっています。
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成しているか	14	2	3	5	・個別支援計画には個別と集団が組み合わされていると思うが、実際の支援現場で計画の通り実行が難しい状況もある。 ・支援によっては個別活動が少ない。	⇒個別支援を行うスペースがないため、計画的な個別支援は実施していないが午後の自由遊びの際に個別に支援する時間を工夫して確保していきます。
⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	15	8		1	・朝の打ち合わせは添乗員以外は毎日出来ている。 ・打ち合わせはしているが、バス送迎や面談等で全員揃わない。 利用者が来園すると詳細な申し送りは難しい部分もあり、結果的に朝の打ち合わせ通りいかないことが多い。打ち合わせ不在で、理解や納得感が不十分だと連携にも影響が出ると感じる。 ・以前より、朝の打ち合わせができるようになり、意見交換もできるようになったと思います。 私からも「こんな時はどうするか?」と質問しやすい雰囲気になったと思います ・バスの送迎などの関係もあるが、内容の確認は行なっている。	⇒送迎バスの添乗、保護者面談、係の打ち合わせなどで職員が揃わないこともあり、全員での打ち合わせは難しい状況であるが、最低限必要なことは、朝礼時に共有し、支援前にもクラス単位での打ち合わせを行なうことが出来るようになってきましたが、さらに情報の共有の工夫を検討します。
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	9	12	1	2	・時短職員が多いのと、業務が溜まってしまうと振り返りに時間を割けないこともあります。 ・他の業務が重なりと時間の調整が難しいこともある。 ・勤務時間や他業務の関係もあるが、その場に何人かでも集まっていたら、できる限り気付きを共有してはいる。	⇒各クラスで振り返りを行なうと共に終礼時には、その日のひやりはっと、にこりほっとを全クラスで共有を行なっているので継続していきます。
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	19	4		1	・記録はその日のうちに記入が出来るようクラスで協力してもらいました。 ・記録を入力する時間が少ない。	⇒日々の支援の記録を支援の検証・改善につなげられるように重ねて工夫をしていきます。
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	19	1		4	・上長が行っているものと解釈している。	⇒担当職員のモニタリング等により必要に応じて個別支援計画の見直しを実施します。

公表: 令和7年3月25日 職員数 28名 回収数 24件 割合 86%

事業所名: 伊勢原市児童発達支援センターおおきな樹

	質問事項	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	工夫している点、課題等	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	⑳ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	18	1		5		⇒児発管又はクラス担当者が出席し情報提供を行ないます。
	㉑ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	14	1		9		⇒関係機関(児童発達支援事業所、幼稚園等)との連携は見学、情報交換を通して今後も深めていきます。
	㉒ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	5	2		17		
	㉓ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	5	2		17		
	㉔ 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	18			6		⇒対象者については、関係機関に訪問等を行ない担当者会議を実施し、情報共有を行ないます。
	㉕ 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	19	1		4		⇒小学校の様子や引継ぎ内容を職員間で共有できるように工夫します。
	㉖ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	6	3	1	14		⇒他機関との連携を図り、支援方法や制度の共有を図っていきます。・通園事業所連絡会へ参加しています。
	㉗ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	1		17	6	・活動する機会を作ってほしい。特に就学前の子ども達に。	⇒行政機関とも連携を図り、地域の幼稚園、保育園と連携を図っていきます。
㉘ (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	12	1	1	10		⇒協議会のこども支援部会事務局を担当しており、地域の児童発達支援、放課後等デイビス、相談支援事業、学校、行政と共に研修等を開催しています。 ⇒子ども・子育て会議に参加しています。	

公表: 令和7年3月25日 職員数 28名 回収数 24件 割合 86%

事業所名: 伊勢原市児童発達支援センターおおきな樹

	質問事項	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	工夫している点、課題等	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	⑳ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	17	4		3	・送迎時に普段の状況を伝える努力はしているが、それぞれの主観になってしまう部分もある。	⇒日々の状況はクラス毎のマチコミにてお伝えをしている為、個々の様子は一週間に一回日々の様子を伝えるようにしています。マチコミでも写真を添付するなどより視覚的にもわかりやすい情報提供を行なっています。 ⇒面談の内容等については相談支援事業所と共有を図っています。
	㉑ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	21	1		2		⇒来年度もペアレント・トレーニングを実施する予定です。
保護者への説明責任	㉒ 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	10			14		⇒職員に対して運営規程を周知徹底することで事業に対する理解を高めます。
	㉓ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	15			9		⇒全職員が常にガイドラインを意識して支援できるように定期的に研修等を行ないます。
	㉔ 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	18	2		4		⇒クラス担当以外の職員が受けた時の対応等や迅速な対応のための情報共有など対応方法を検討していきます。
	㉕ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	13	4		7		⇒卒園児の保護者を含めた親子交流会を検討していきます。
	㉖ 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	18			6		⇒基本的に即時対応を行なっていますが、時間調整が困難な保護者についてはzoomなどのツールを活用して支援の対応も行なっています。

公表: 令和7年3月25日 職員数 28名 回収数 24件 割合 86%

事業所名: 伊勢原市児童発達支援センターおおきな樹

	質問事項	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	工夫している点、課題等	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
等	⑳ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	23	1				⇒年間予定表を作成し年間行事の案内を行なうと共に園だより等もホームページに掲載をしています。
	㉑ 個人情報の取扱いに十分注意しているか	23	1				⇒ホームページの写真掲載等において同意書を使用し、確認を行っています。
	㉒ 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	18	2		4		⇒外国籍の保護者の方への情報提供の方法については、個別に対応を行なっています。
	㉓ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	2	4	6	12	・「地域に開かれた」という言葉の定義を事業所として、どのように考えるかを明確にした方がよい。(過去の職場では法人主催の夏祭りに芸能人を呼ぶ等して地域住民を集めていたが、それが法人の活動の周知に繋がるのか疑問だった)	⇒行事への招待など検討していきます。 ⇒園だよりを地域の自治会に配布を依頼し、情報の発信に努めています。
非常時等の対応	㉔ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	19	4	1		・マニュアルは存在しているが、把握しきれていない。	⇒マニュアルの内容確認、定期的に確認と共に、時勢に応じて検討していき、職員間での情報共有を図っていきます。
	㉕ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	22	2			・救出の訓練はしたことがない。	⇒お子さんたちは避難時に防災頭巾を使用し、小学校へ行っても同様の訓練に手対応できるように支援をしています。
	㉖ 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	13	5		6	・服薬について保護者からの連絡帳の記載で把握したケースがあった。	⇒入園時に健康状態の確認と服薬については医師の意見書を基に対応を行なっています。
	㉗ 食物アレルギーのある子どもについて、示書に基づく対応がされているか 医師の指示に基づく対応がされているか	16	1		7		⇒対応が必要な児童については引き続き医師の指示書を基に対応を行ないます。
㉘ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	24				・ワークスの議事録が分かりやすい。	⇒ラインワークスなどを使用しヒヤリハットの事例集を作成し情報の共有を図ります。	
㉙ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	23	1				⇒研修で学んだことを実践できているかセルフチェックなどを利用し検証を行ないます。	
㉚ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	10	4		10	・「身体拘束」について動画研修で教科書的な知識は学べても、実際の支援場面ではどこまでが身体拘束になるのか、悩む場面もある。	⇒引き続き身体拘束の研修を行ない、職員が関わり方の根拠を説明できるようにしていきます。	

◎ この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。